

妻の母 おおがいくこ
大賀 郁子

奈美は
いいわね

何の話
お母さん

妻 のうみなみ
能深 奈美

お父さんと違って
稜人さんは素敵ねって

お父さんは
何もしないもんね

あらお上手、やっぱり
お父さんとは大違いよ

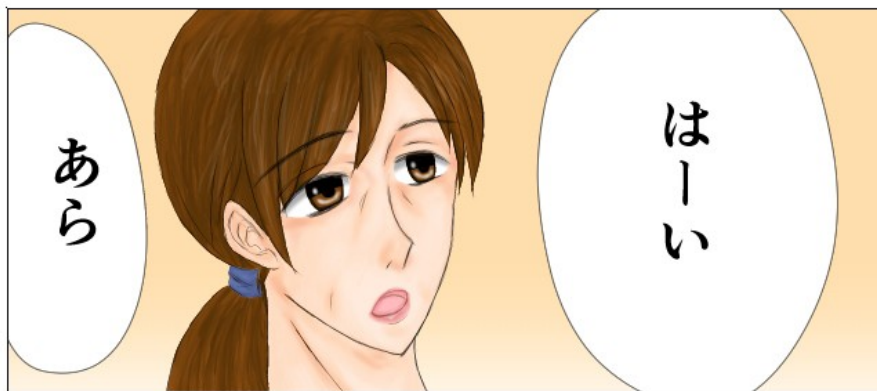
僕はお義母さんが
できる女^{ひと}だってワカってますよ
お義父さんと代わりたくらいです

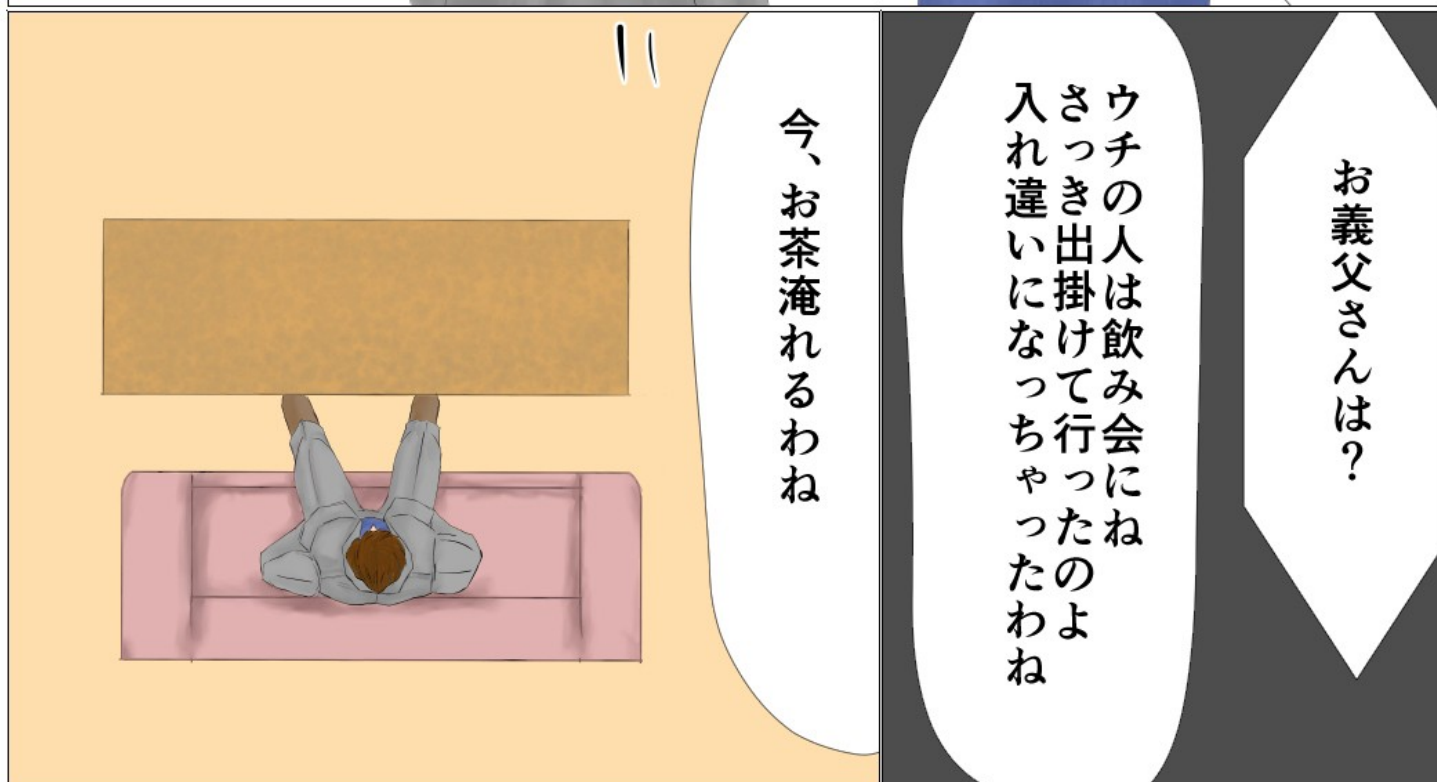
私も稜人さんが
夫だったら良かったな

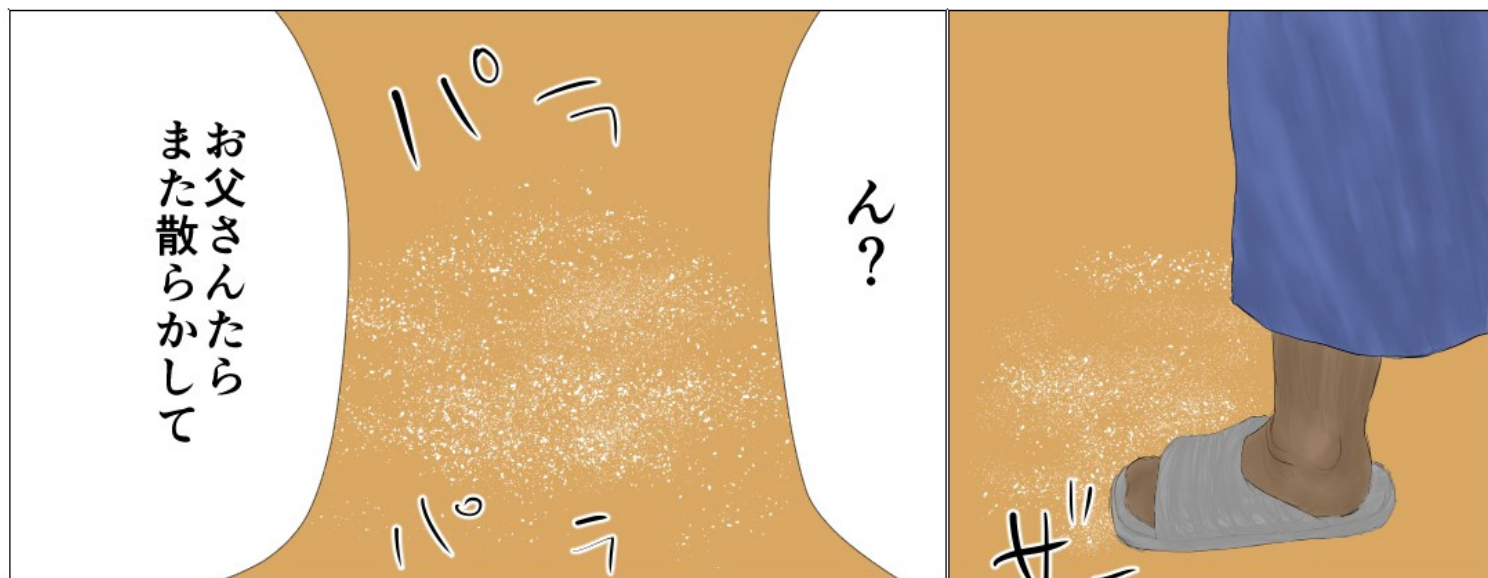
お義母さんも素敵ですよ

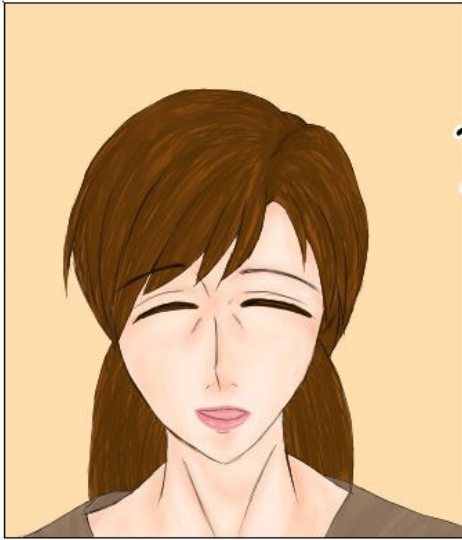
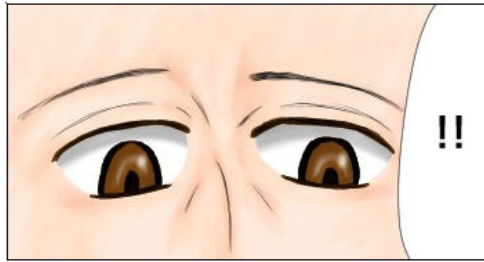
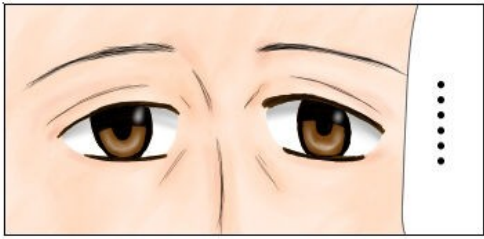
もうっ
お母さんっ

のうみりょうと
能深 稜人











口でなんて……
した事ないのに
それに
なんて……大きいの

そろー

ああっ
こんな

クワ

お願い
早く……早く鎮まって

お義母さん
そんなんじや
何時まで経っても
終わらないよ

そんな
どうすれば

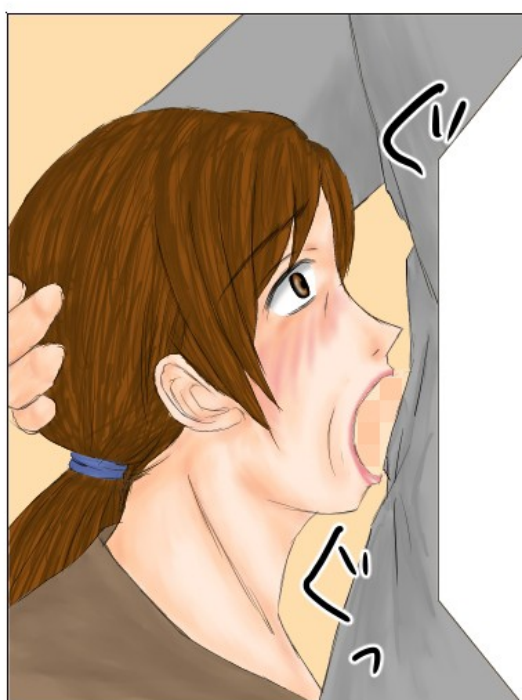
えっ

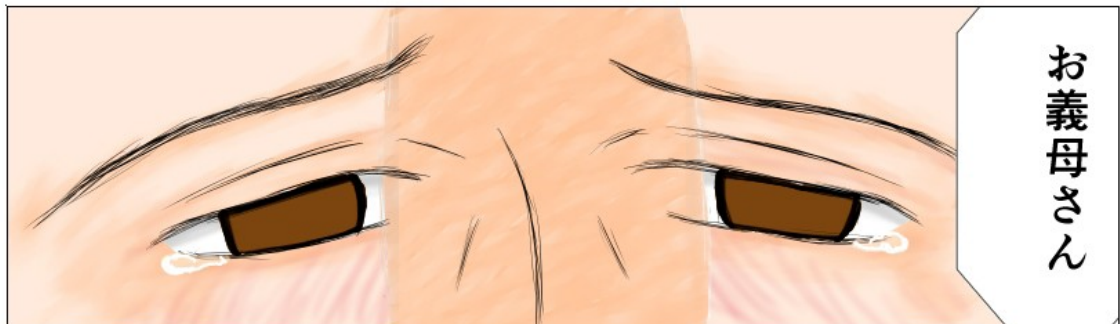
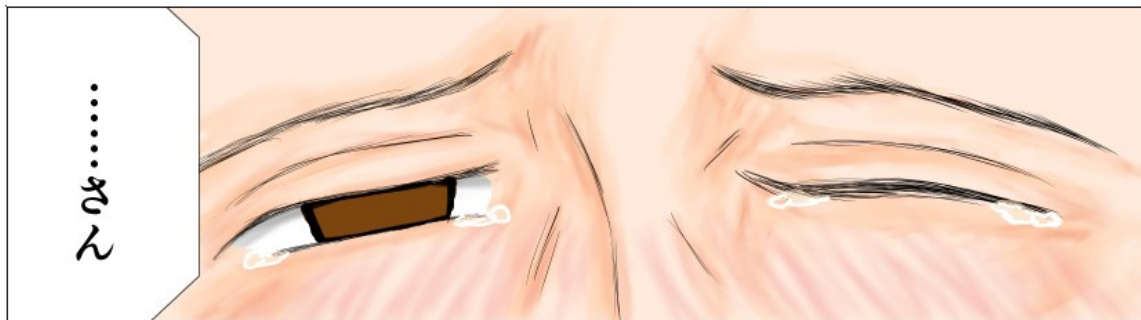
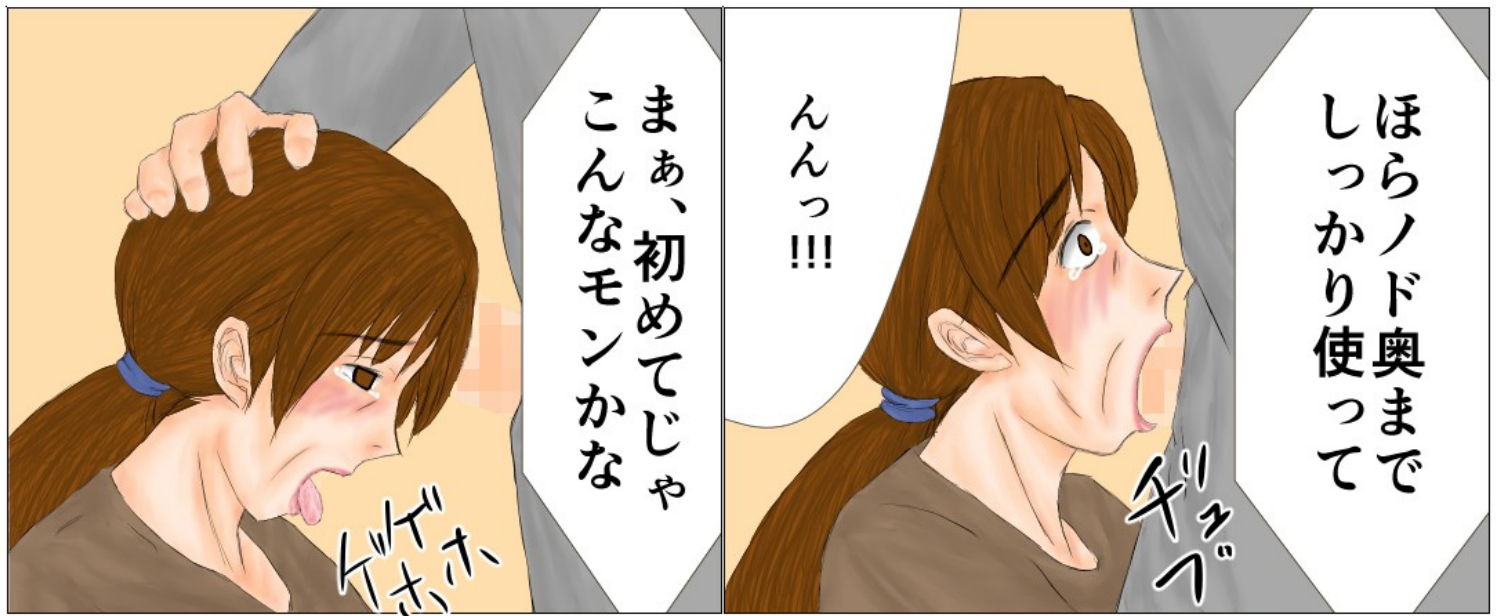
こうして

口に

啜えて

奉仕するっ





まだ終わりじゃないよ
お義母さん

ま、まだ
何か
させるの？

そりゃあ勿論
させますよ

ああっ、そんな

フィッ
ッ

よっと

ひっ

ぐい
っ

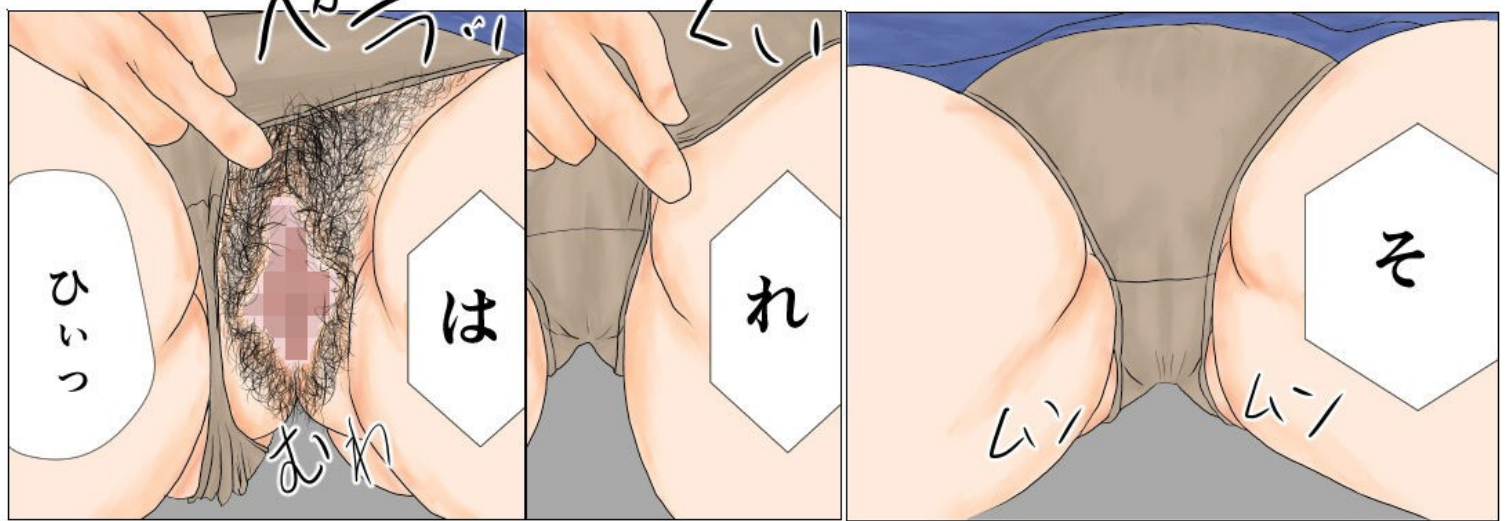
パッ
ッ



ああっ
稜人さんっ
なっ、何をする
つもりなの

ドス

何って



ペラッ

ひいっ

は

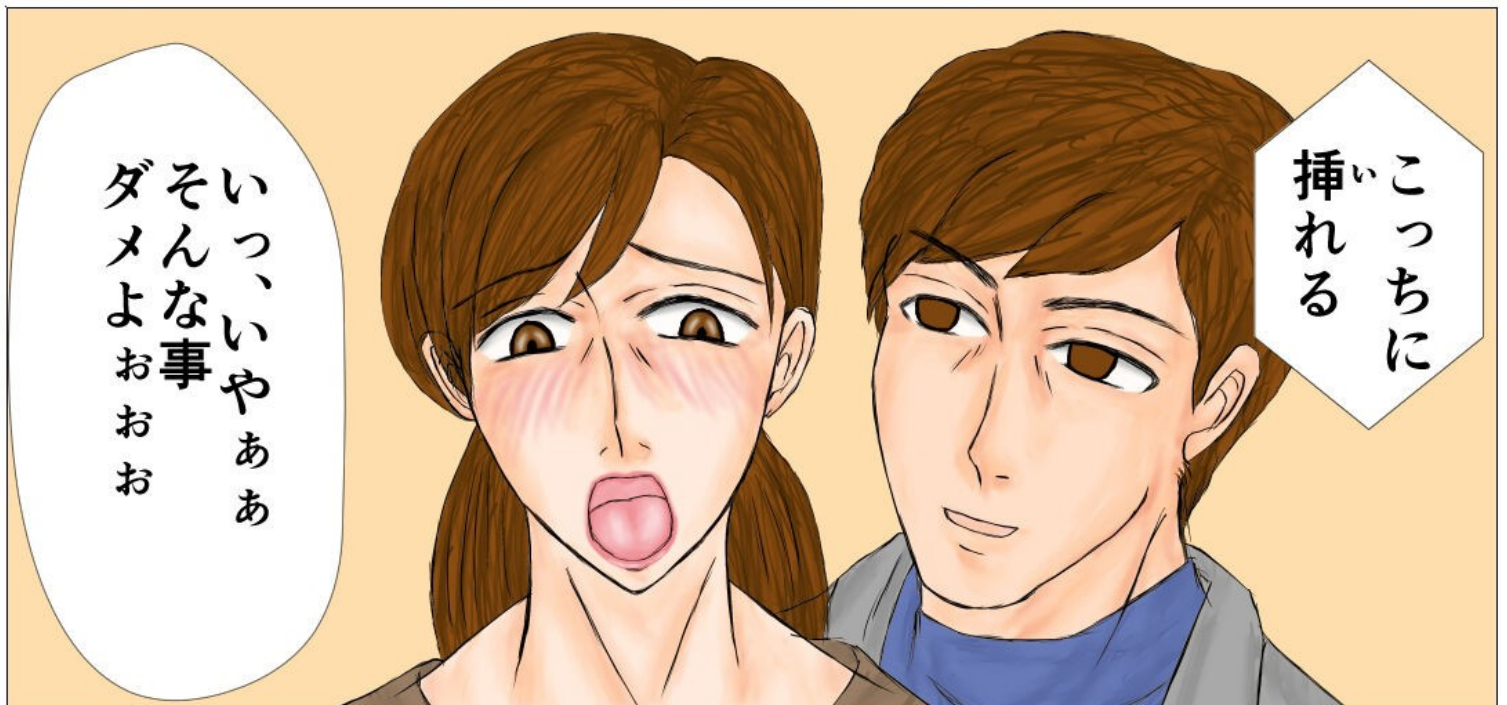
れ

わい

そ

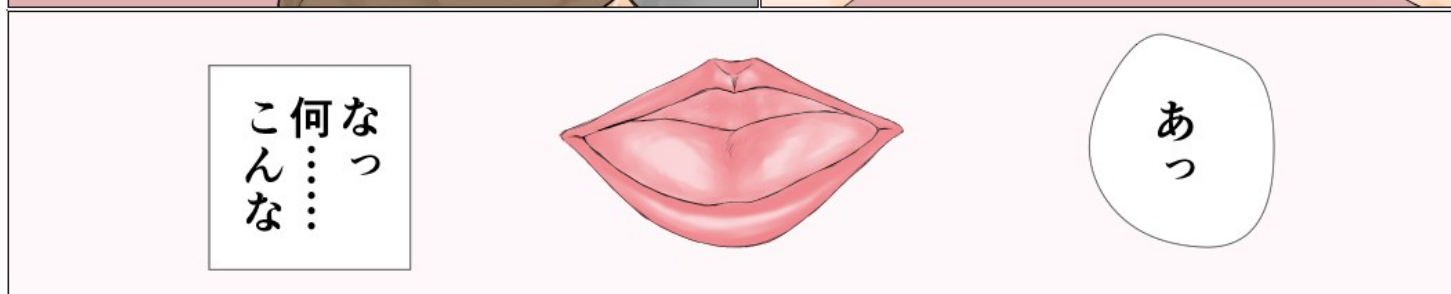
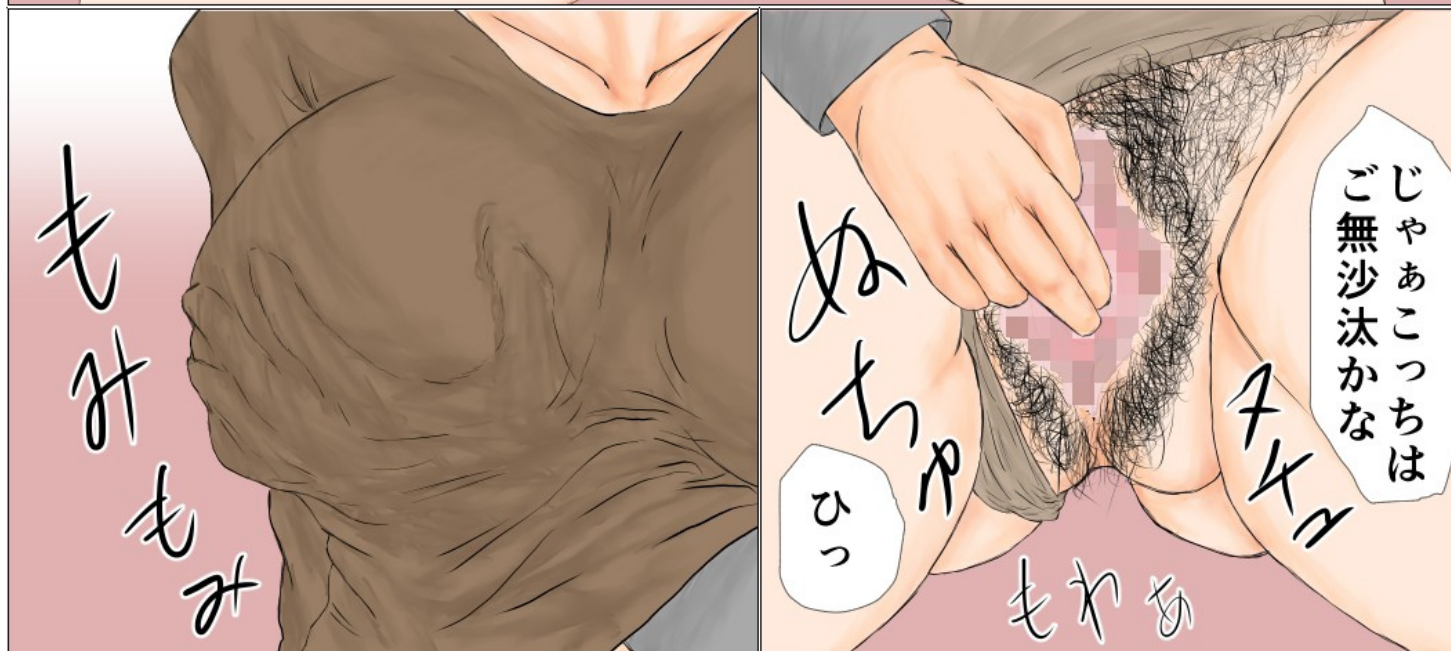
ん

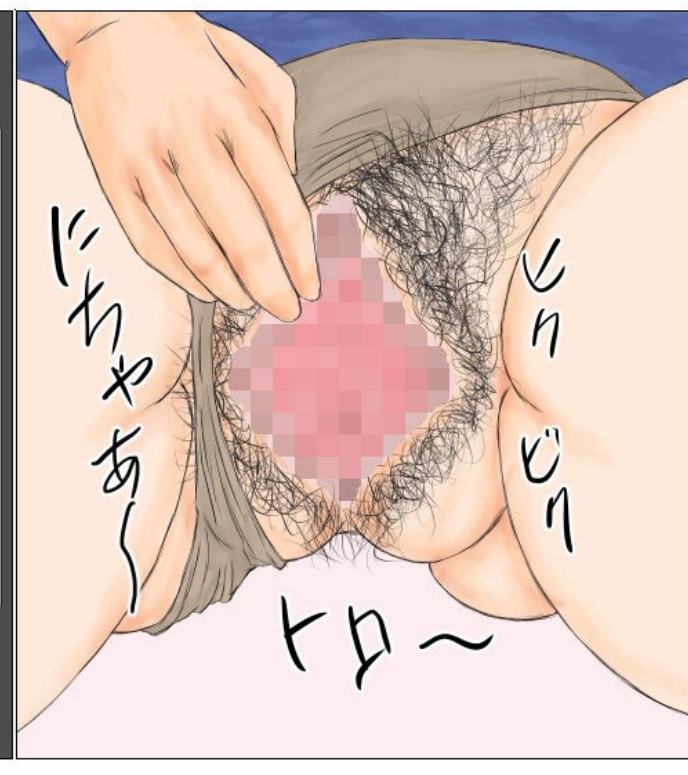
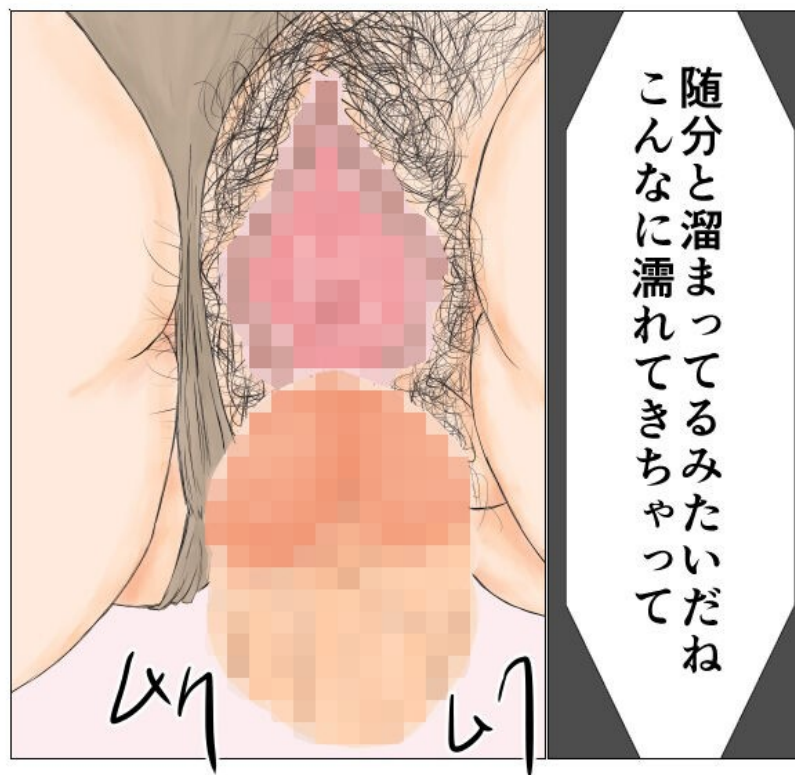
ん



こっちに
挿れる

いったい、いやああ
そんな事
ダメよおお





お義母さんの
なかに挿入しちゃったね

ああっ
こんな事ダメよおお
稜人さん、やめて

どう？
久しぶりの
感想は

そんな事っ
知らないわ

まあまあ
ほら、お義母さん
カメラ見てよ

えっ……

もみっ

ジ

わしっ

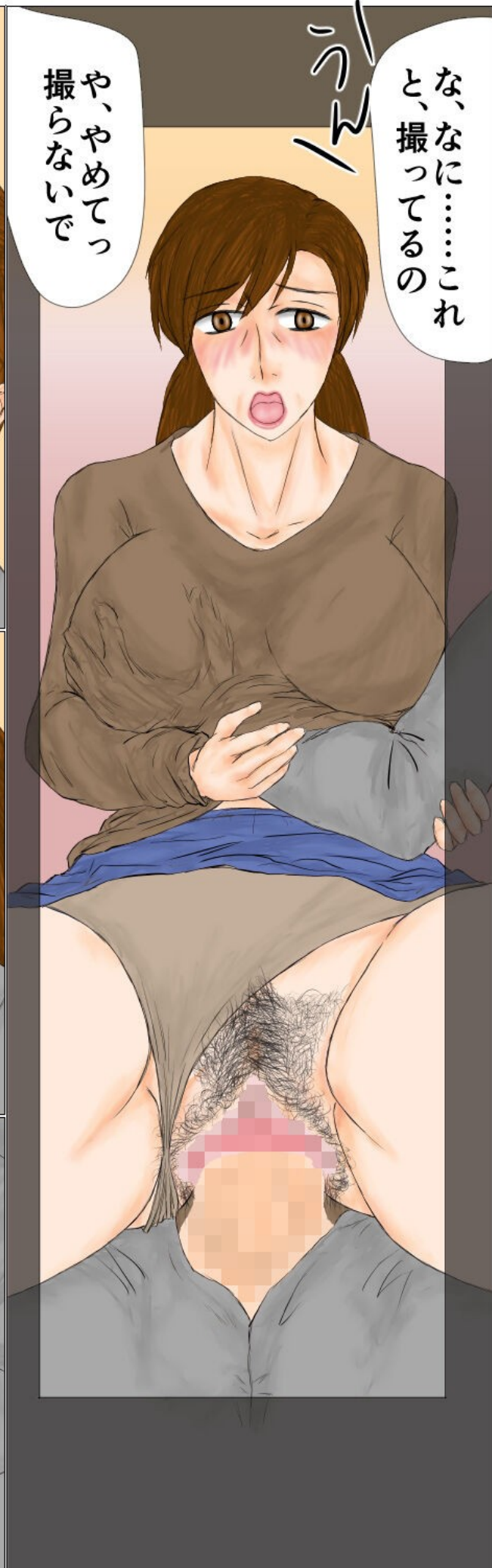
わかれ

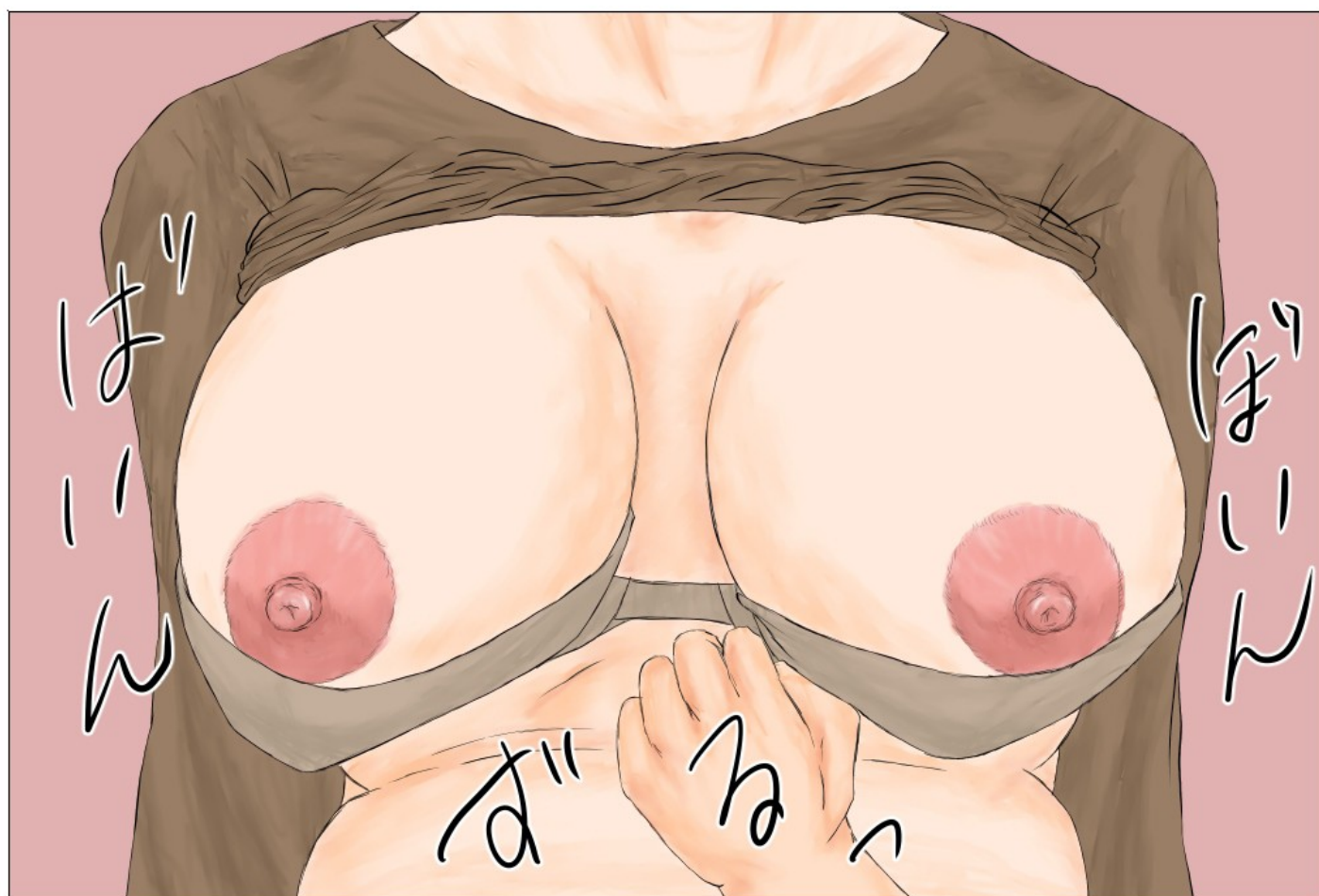
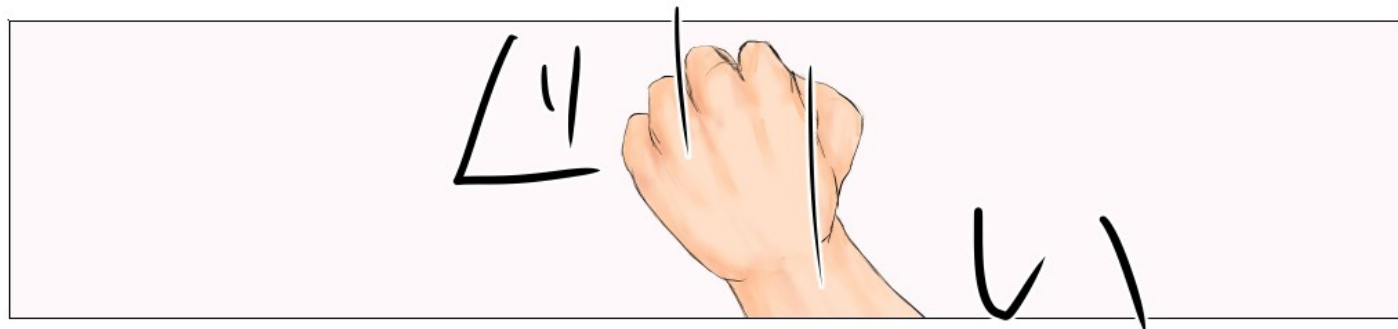
グ
グ
グ

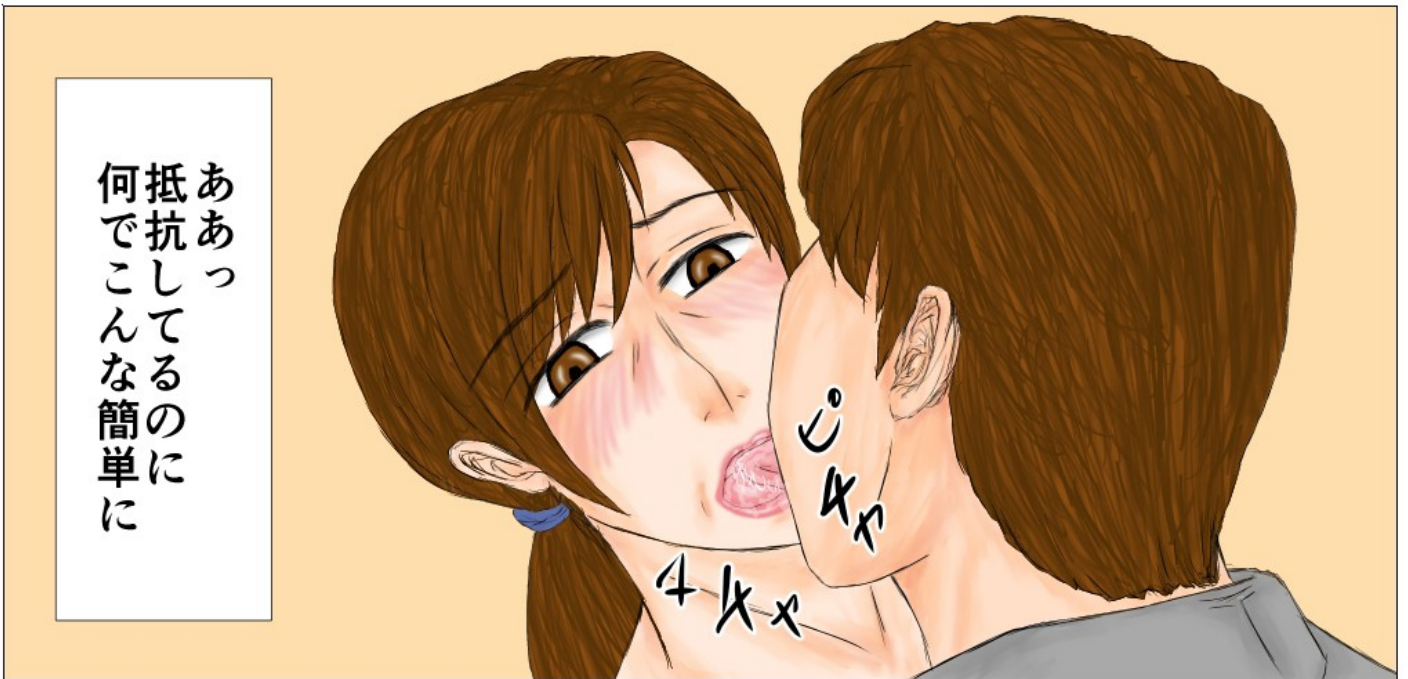
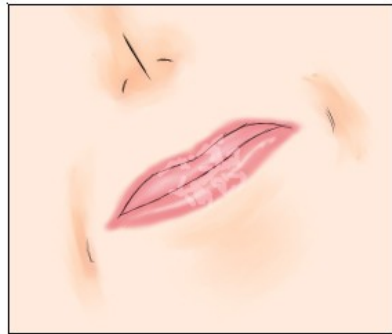
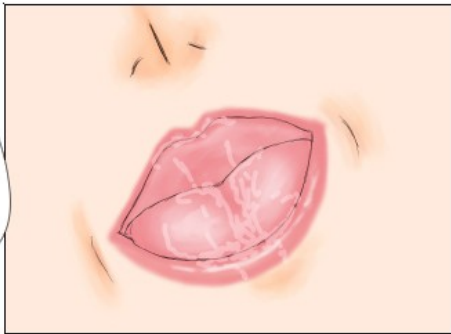
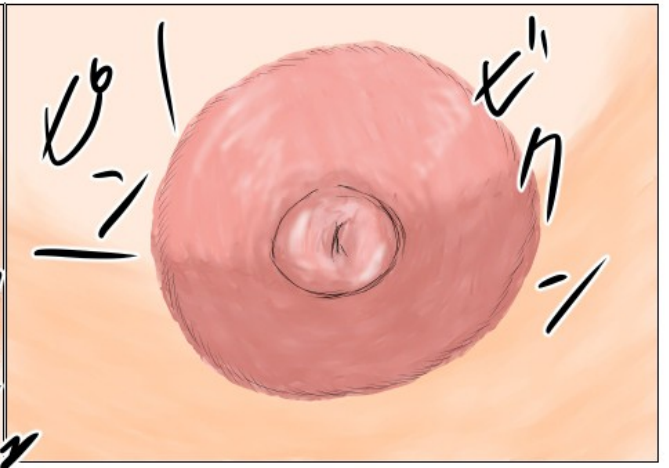
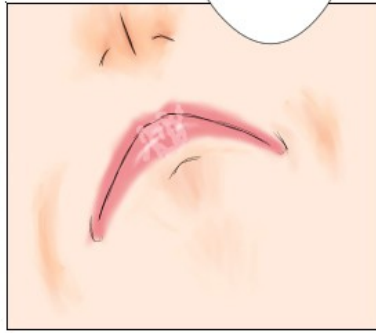
グ
グ
グ

ギン
ギン









お願い稜人さん
もう許して

僕はお義母さんと
親密な関係になりたいんですよ
だからもつと奥深く隅々まで
良く知っておかないとね

ああっ
こんな関係
いけないわ

お義母さんにも
僕のコレを気に入って欲しいんです
欠かせない大事なモノとしてね

な、何を言っているの？

あ、あなたは奈美の夫なのよ
それに
わたしにも……お、夫がいるのよ





この続きは
もっと
相應しい部屋で
しましょう

ど、どこへ
連れて行くの

こっこの部屋は

ガッ
タ
ッ

わたし
夫婦の寝室っ



もうグチヨグチヨだよ
お義父さんにしてもらった事ないの？

ああっ
そんな所……舐めちゃだめえ
あの人はそんな事……しないのよ

じゃあ
お義母さんの味を知ってるのは
僕だけかな

し、知らないわっ
んああっ、稜人さん
やめてええっ

ペ
ン
ン

グ
ン
ン

じ
ん
ん

ん
ん
ん



ここは
夫婦の寝室なのよ
こんな事だめよお

お義母さんも
営みしたいでしょ

いん

いん

この巨乳も
使わなきゃ
勿体無いよ

そ、それは
夫婦でする事なのよ
わたしには夫が……

でも
お義父さんとは
ずっとしてないでしょ

あ

ぽん

いん

あ

さっきよりもしつかりと
啜え込んでるよ
お義母さん
気に入ってもらえたかな

あああっそんなのっ
う、嘘よおお
だめっ、だめええ
抜いてっ、抜いてええっ

全然使っていないんだから
かなり溜まってるとしょ
すぐ女盛りにしてあげるよ

こ、この歳だし……
夫婦で……し、しないでしょ
なっ、何を言っ
あ、あああああ——
突かないでえええっ



この味をしつかりと覚えてね

ダメっ
なか
膣内はっつ
あああああ



あ

夫以外の精子が
わたしの子宮に

ああ

覚えちゃダメなのに
このままじゃ
覚えちゃう♡



お義母さん
キスしよう

あ、ああっ
わたしみたいな年増相手に
どうしてこんな

オバサン

んん
あ

ああ
稜人……さん



わたし
女にな
ってる

きん

あ



あああああ——

うっ、嘘でしょおお
子宮の中まで来ちゃうのとお
そっちも同時にキスするのとお!?

そつ、そんなのつ
しつ、知らないわ

ほら、気持ち良いでしょ
どう、お義母さん

もう駄目ええ

おばさん
こんな年増相手にどうしてえ

あ

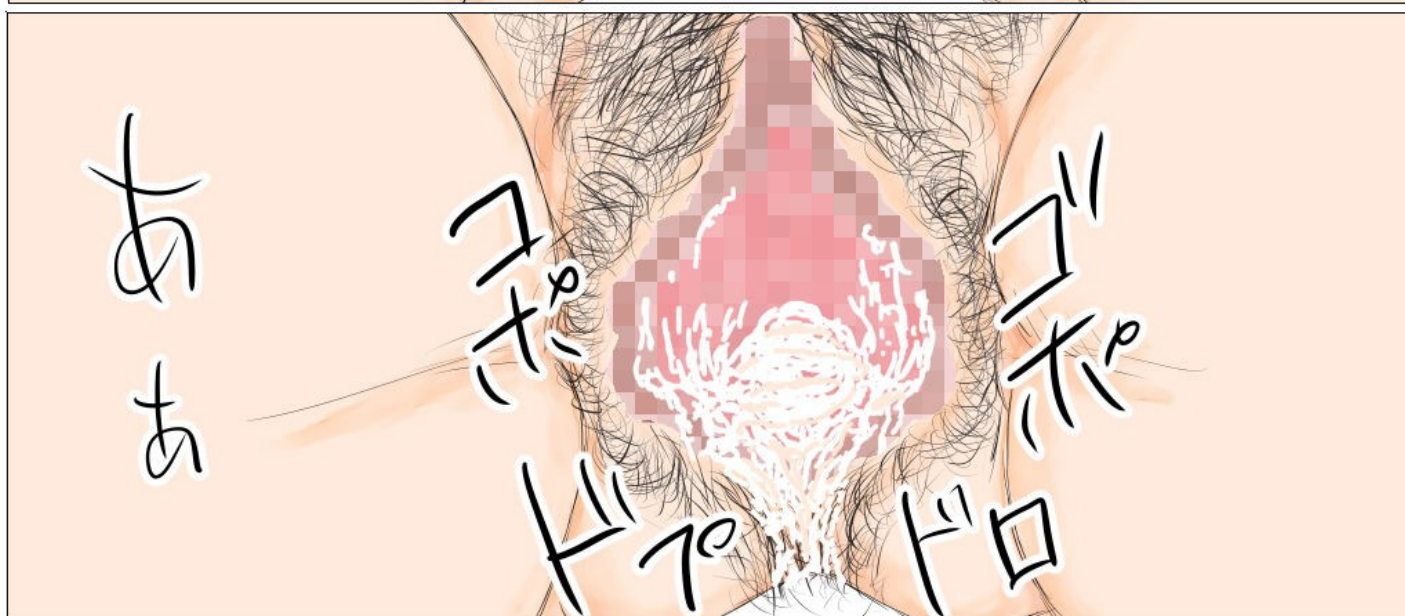
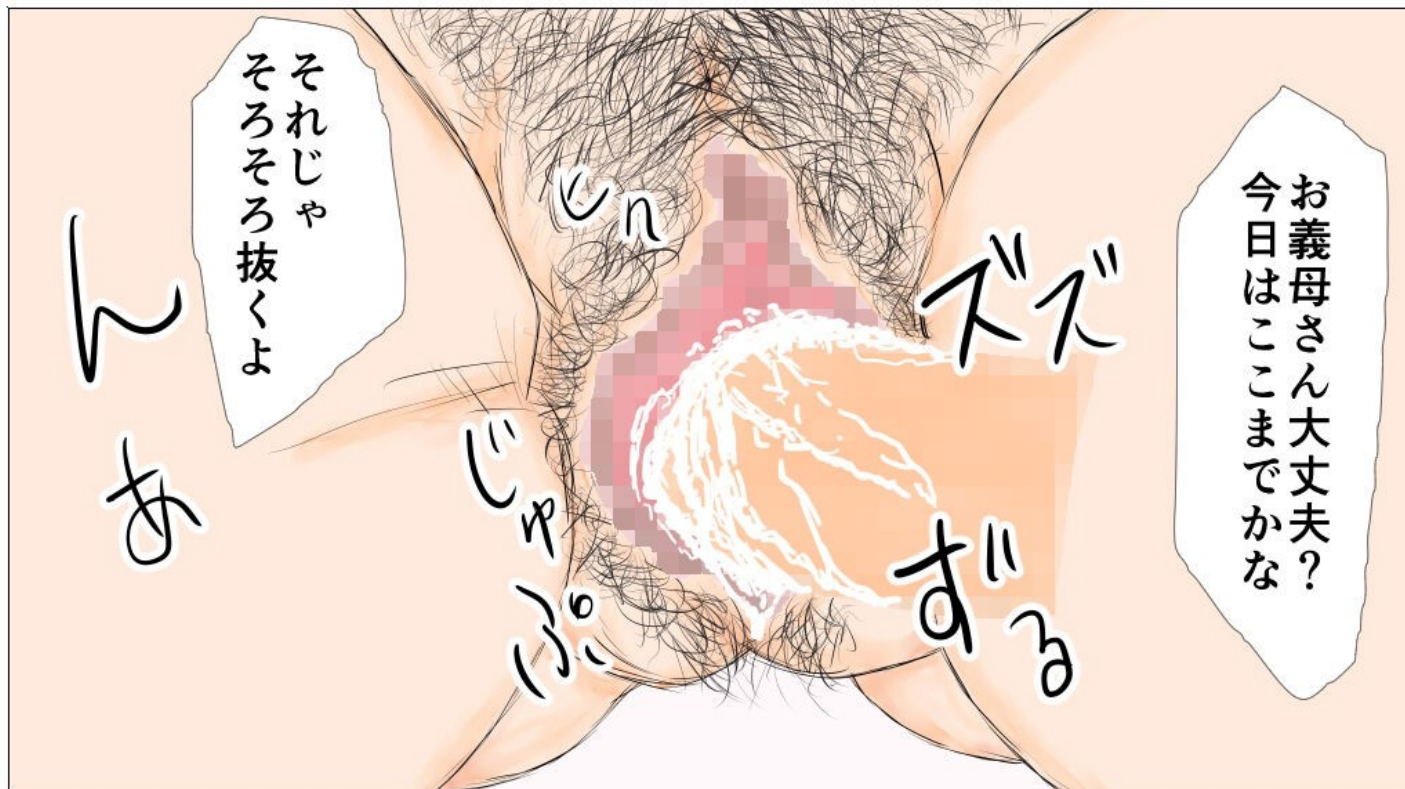
あ

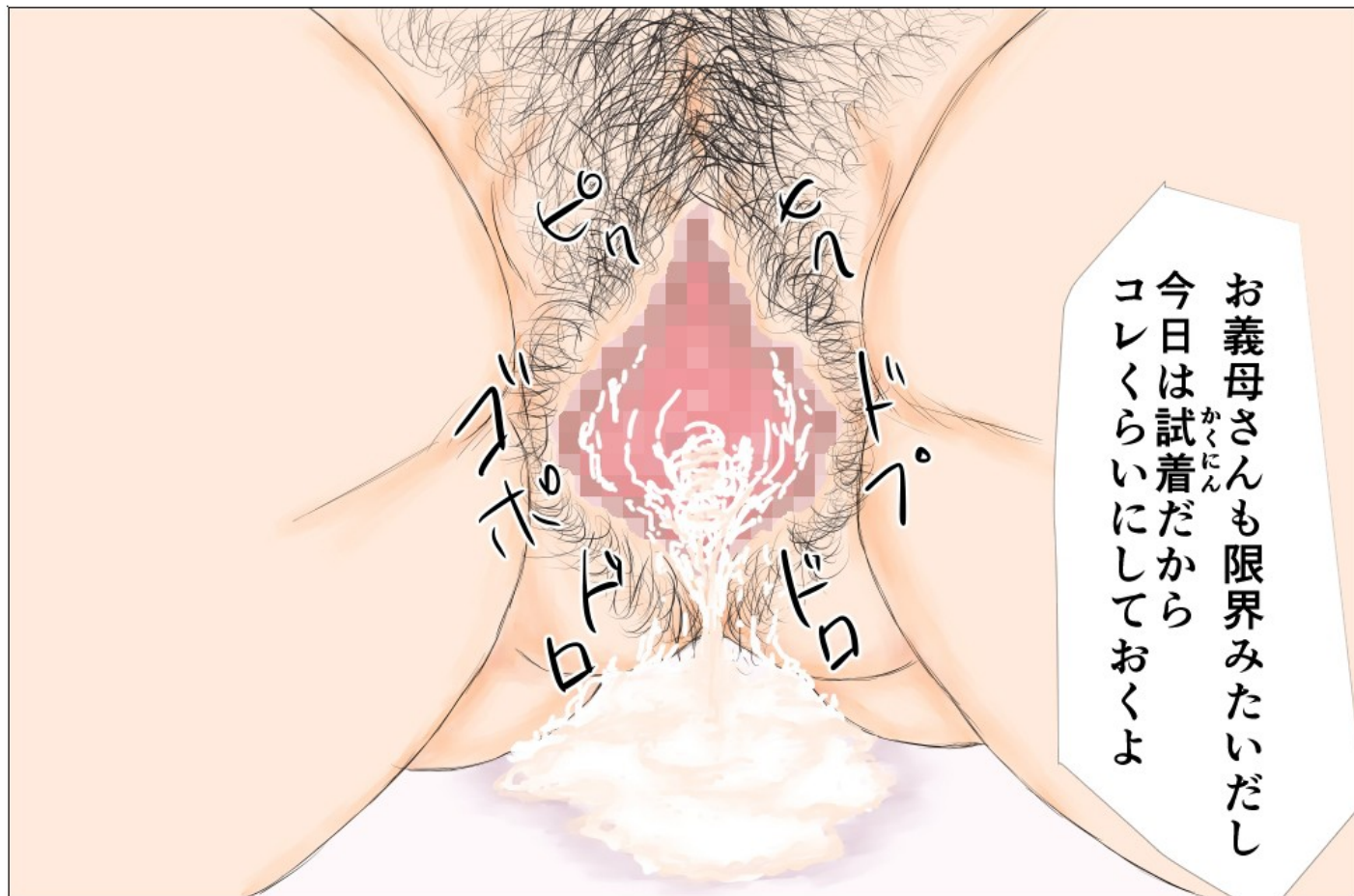
ダメ
稜人さんっ

あつ——あああああつ

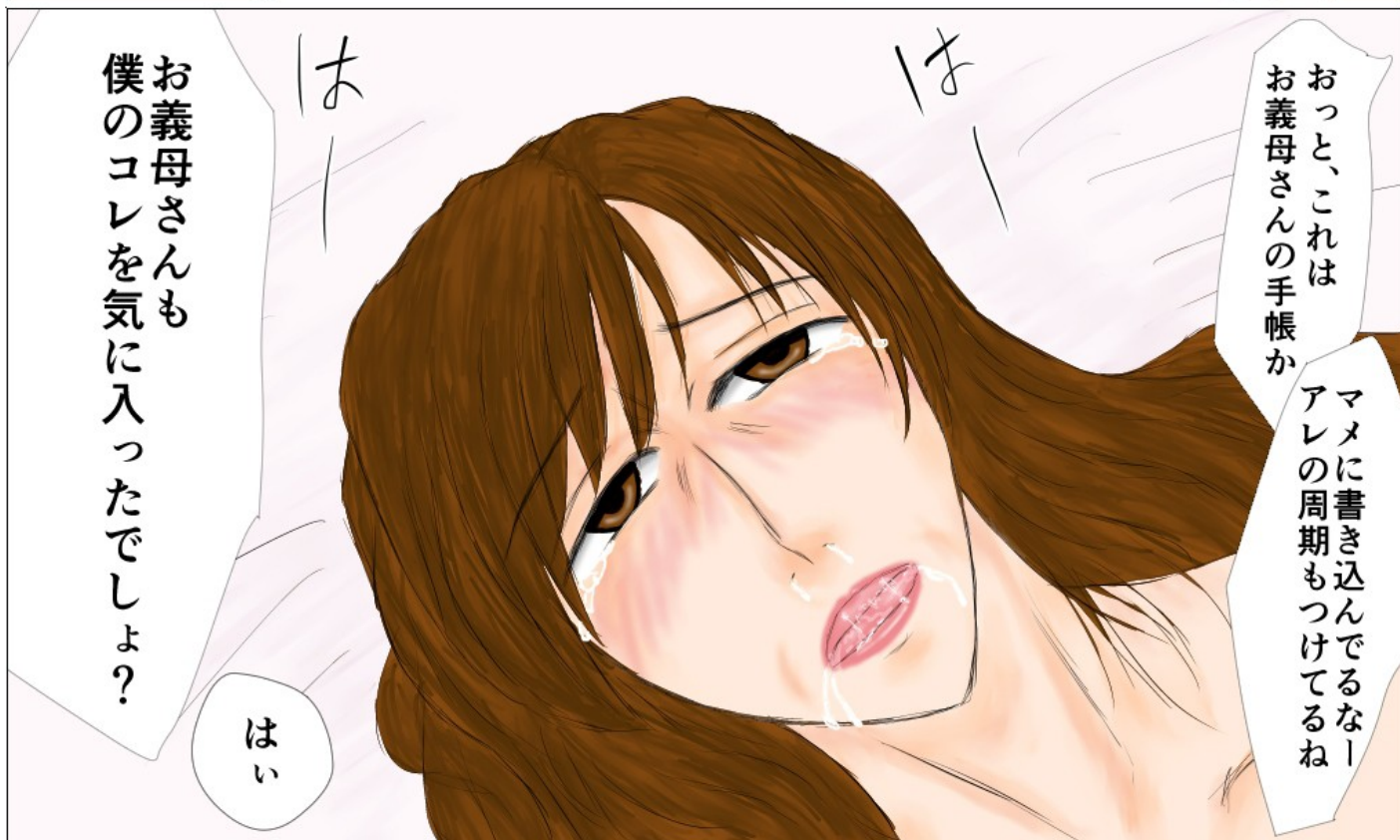
またいったね、お義母さん

$$\begin{matrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{matrix}$$





お義母さんも限界みたいだし
今日は試着^{かくにん}だから
コレくらいにしておくよ



おっと、これは
お義母さんの手帳か

マメに書き込んでるなー
アレの周期もつけてるね

お義母さんも
僕のコレを気に入ったでしょ？

はい



夫とは何もかも違う
こんなの知ってしまったら
わたし……

収まり具合も良いし
これからたっぷりと
使い込んであげるよ

ああっ
また稜人さんに
抱かれる……のね

お義母さんの
アノ日もワカったし
その歳でも
まだデキるでしょ

次は良い日を選んであげるよ
深い関係になりたいからね
それじゃ、またね

はー はー



この歳まで知らなかったけど
絶頂イクってこういう事なのね

あぁ、わたし
稜人さんに迫られたら
もう拒めない……わね

そう言えば稜人さん
帰り際に何か言っていた様な……

あつ、もうこんな時間
早く綺麗にしないと
お父さんが帰って来ちゃうわ……

